

■「鐘の鳴る街 会津」～鐘の役割と効果～

鐘の役割

- 時間を知らせる
朝夕の時報（暁鐘-ぎょうしょう、昏鐘-こんしょう）
現在の様に時計が普及していない時代に時を告げる大切な役割を果たしました。
- 非常時を知らせる
火事や災害などを知らせる時に鳴らされました。
- 宗教的な時に。
法要など仏事の予鈴として。または除夜の鐘に代表されるように、
儀式的・宗教的な意味合いを持ちます。

鐘をつくには定められた約束事が存在し、各宗派によって異なります。例えば、時の鐘はお寺の鐘楼の役目ではなく、普段から鳴らさないというお寺や、仏教では夜半という言葉があり、午後5時を持って夜が始まるという考え方のもとに、5時に鐘を鳴らすお寺、正確な日没をもって鐘を鳴らすお寺などがあり、鐘をつく回数もお寺によって異なります。

文学の中の梵鐘

歌川国芳の「弁慶、比叡山へ引き摺り上げる図」（滋賀県大津市三井寺所蔵）

祇園精舎の鐘の音、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす」平家物語冒頭

「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」（正岡子規の俳句）

「夕焼け小焼けで日が暮れて、山のお寺の鐘がなる」
（童謡『夕焼け小焼け』作詞：中村雨紅、作曲：草川信）

癒しの効果

お寺の鐘の音は音名でいうと、「ラ」の周波数に近いものが多いようです。赤ちゃんの産声はこの「ラ」の音で泣くといわれています。お寺の鐘の音などに含まれている、人をリラックスさせる周波数のことを $1/f$ ゆらぎといい、規則性と不規則性の中間のもので微妙なゆらぎを持ち、人間のもつ生体リズムと同じなので心地よく感じるのです。心臓の音も「 $1/f$ ゆらぎ」をもっており、赤ちゃんはそれを聞くと胎内回帰し、安心します。「 $1/f$ ゆらぎ」は、自然界のものや手作りのものに多く含まれ、小川のせせらぎ、鳥のさえずり、波の音などの自然の音や、人が弾くバイオリンの音色などに含まれているのが「周波数ゆらぎ」で音の高低によるゆらぎです。またお寺の鐘や江戸風鈴は、音の大小のゆらぎがリラックス効果を生む「振幅ゆらぎ」に該当します。「音楽療法」と銘打ったCDなどには、鐘の音を取り入れているものもあるくらいで、精神安定作用に効果があるからだと思われます。

ゴォーンといつもまでも続く鐘の音の余韻はどこまでも美しく、その響きは倍音を伴い、人間の耳ではとらえられない周波数となって心を癒してくれるのです。

■「鐘の鳴る街会津」事業～期待できる効果～

- お寺の鐘を同時刻に一齐に打ち鳴らす事により情緒ある城下町の雰囲気を作り出す。
- 鐘撞きにより我々市民が「仏都会津」とい会津の魅力、資産の再発見が出来る。
- 近隣の住人や子供達が鳴り響く鐘の音を聞く事により、会津に住んでいる事を誇りに思う。
- 観光で訪れる方々にも鐘撞きを体験していただき会津の精神を共有してもらう。
- 市中に響く鐘を通じて地域の一体感と心のつながりを醸成する。
- 市民と寺院の関係が希薄なものになった昨今鐘撞きをする事でコミュニケーションの一翼を担えるのではないか。
- 文化的統一感のある街づくり。
- 観光客が鐘つき体験を通して会津の歴史にふれることで、より主体的な参加型の観光を提供できる。

